

心に納めると言うこと



主任司祭 遠山満

現代社会の持つ一つの特徴は、科学文明が、その価値観の底流を成しているということ。そこでは、物事を分析したり、物事に白黒をつけたりすることが大切にされます。私も学生時代、数学の難問を、何時間も、時には幾日かけて解いていたのを思い出します。その間、日常生活の中で時間があれば、それについて考えると言うような事をしていました。それは苦しいプロセスでしたが、他方、正解にたどり着いた時の喜びは、筆舌に尽くしがたいものがありました。

私たちの信仰上の問題は、これとは少し質を異にしている、時には解決に至るまで、かなりの時間を要するような問題もあるような気が致します。例えば、私たちは、「神の子」となる為に洗礼を受けました。ですから、洗礼を受けた私たちは今、恵みの状態にあります。言い換えれば、私たちは、幸せになるために洗礼を受けたのです。これは、神様からの約束として捉えて良いと思います。しかし、私たちの目の前で展開する現実、いかなるものなのでしょう。時には、何故、このような問題が起こるのだろうか、と叫びの声を挙げてしまうこともあるのではないのでしょうか。

さて、今年9月は、8日にマリア様の誕生を、15日に悲しみの聖母を祝います。マリア様は、皆さんもご存じのように、御自分の心の中で未解決の問題を、心に納めながら生涯を生き抜かれた方です。マリア様の心の中には、しばしば「何故」という思いが浮かんで来たことなのでしょう。例えば、イエス様が12歳の時、過越祭の為、家族でエルサレムへ行かれた時のことです。イエス様を見失われたマリア様は、三日間イエス様を探し、その後イエス様を見出した時、最初にその口から出てきた言葉は、「何故、こんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんも私も心配して探していたのです」という言葉でした。それに対してイエス様は、「どうして私を捜したのですか。私が自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか」とお答えになりました。マリア様には、イエス様の言葉の意味が解りませんでした。それらのことを全て心に納められたのです。その他、マリア様にとって、全く理解できない出来事も多かったと思います。特に、イエス様の十字架上の死は、理解しがたいことでした。未解決の問題を抱えながら、人生の折々に、それらの問題を信仰の目を通して見ることにより、「腑に落ちた」というようなことも体験されたと思います。

私たちも、マリア様に倣って人生を歩んでまいりましょう。未解決の問題に直面する時にも、心に納め、思いめぐらしながら生きていくことができますように。

カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時：2015年9月6日（日） 11：30～12：20

開催場所：信徒会館

司会：川原

書記：牧山



始めの祈り—主の祈り



1. 緊急連絡網について

昨日までのアンケート回答数は129件。

連絡方法の希望内訳：携帯メール55件、パソコンメール11件、FAX15件、
固定電話27件、携帯電話17件、連絡不要4件

未回答の191件については返信用封筒を添えて、期限を9/18としアンケート用紙を郵送した。返信用切手は自己負担としている。

メールとFAXは教会から送るとして、電話希望者への連絡をどのように行うか。

1案：電話連絡希望者だけの連絡網を作る。

2案：名簿を整備した上で、班長さんに班だけの名簿を渡し、班長さんが電話する。

班長さんに班内のことを知ってもらうためには、班長さんに連絡をお願いした方がいいとの提案から、2案を採用することに決定。また名簿の管理については、転入・転出は教会事務が口となるので事務が行う。メールアドレスや携帯番号等入力する必要があるので、信者会も協力する。今後事務と打合せをしながら進めていく。

2. 敬老会について

特に要望は出なかった。これまで通り75歳以上を対象に行う。詳細は役員会で検討する。

3. その他

①倉庫について

グッデイに現物を見に行くなどして検討中。大きさなど引き続き検討が必要。役員会に一任された。予算は50万円以内。

②軒の中に水が溜まっており、対策が必要な状態にある。放置しておくといずれ腐食する。

③クリスマスバザーの日程について

予定は12/6としていたが、福岡地区女性の会の要望もあり12/13に変更。

終わりの祈り—聖母マリアへの祈り



8月29日(土)恒例の聖アウグスチノ祭が開かれた。当初、久々の屋外駐車場での開催の予定であったが、雨模様のため例年通り教会ホールでのパーティーとなった。この一年の洗礼を受けられた方々や、転入された方を招待して約60名の参加で和やかな楽しい時を過ごした。



2015 聖アウグスチノ祭



焼き鳥 唐揚げ
おにぎり etc



ソーメン流しが始まりました



遠山神父様 誕生日
おめでとうございます



スイカ割もしました



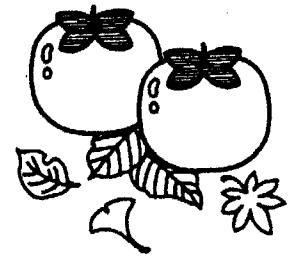
自己(他己)紹介



みんなで 「花は咲く」
「ごらんよ空の鳥」の合唱



信仰のルーツ コーナー



人生の旅路・・・それは恵みに気付くための旅

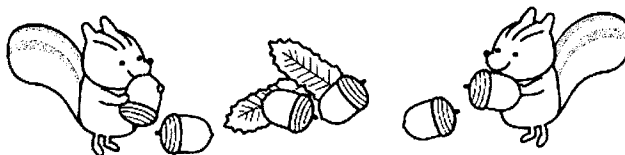
カトリックの信仰を持つ両親の間に生まれ、幼児洗礼を授けられた。父は炭鉱で働いていて、家族は炭鉱長屋で生活していた。パリミッション会司牧の教会に隣接する幼稚園に通った。その頃の記憶は余り無いが、夜寝る前に母と一緒にマリア様の歌を歌ったことをおぼろげに思い出す。

炭鉱が閉山になり、小学1年になる年に、父の実家がある島に引っ越した。平日の早朝まだ暗い中を、兄と一緒に懐中電灯を手にミサに行っていたことが思い出される。「信者になったばかりに・・・」と子供心に不平不満を抱いた時期もあった。叔父や叔母に修道者がおり、誘いを受けて中学・高校の6年間、親元を離れて志願期を過ごしたが、断念してしまった。

社会人になって働き始めると、生活が仕事中心になってしまい、長い間教会から足が遠のいた。妻は結婚前に受洗し、3人の子供は幼児洗礼で、皆同じカトリック幼稚園に通った。ある年の5月の連休中、クルシリヨに参加する機会を得た。振り返ればこの後から自分の中で何か変化が生じ始めた気がする。転職を思い立ち、仕事を辞めて学校に通い、再就職して今に至っている。

夜寝る前に一緒にマリア様の歌を歌った母は10年前に神様の元に旅立った。亡くなる数日前、妹と一緒に病院のベッドに横たわる母の手を握りロザリオの祈りを唱えた。その妹も、母が亡くなって4年後に神様の元に召された。母はもう居ないが、受け継いだ信仰は確かに自分の中にあって、色んな悩みや困難に直面したときに、絶望ではなく安心をもたらしてくれる。このことがどれほど素晴らしい恵みであるかを、最近になって気が付いた。こんなに素晴らしい恵みを受け継いでくれた両親に感謝している。3人の子供は皆成人し、妻も子育てから解放されているが、教会に行かなくなって久しい。教会から離れてしまった人たちが、人生の旅路の中でいつか信仰の恵みに気付く時が来ることを祈っている。

(K. M)



編集後記



先日のアウグスチノ祭に参加した。久しぶりの土曜の夜のパーティーのせいか日曜日のごミサの後の時に比べると参加者が少なかったようだった。しかし、いつもの大勢だったらできなかったであろう、自己紹介を二人ペアでお互いを紹介し合う「他己紹介」はいろんなペアができ、皆さんの違った面の紹介があり、なかなか楽しいものであった。子供たちも、スイカ割りやソーメン流しではしゃいでいた。何よりも転入して来られた方や洗礼を受けたばかりの招待客にとって、共同体の仲間入りする絶好のチャンスの時となったのではなかろうか。残念ながら出席できなかった招待客のおひとりからのこんなメッセージの紹介があった。『ご招待ありがとうございます。共同体の方々とお近づきになりたいと思いつつ難しさを感じていたので、このような機会を頂き嬉しく思います。出席予定でしたが残念ながら急用のため参加できなくなりました。神父様をはじめ共同体の皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。』心細く転入して来られる方もあるだろう、洗礼は受けたものの共同体に受け入れてもらえるだろうかと不安な方もあるかもしれない。改めて、受け入れる側の「優しい心」と「微笑み」を忘れないようにと気づかされたひとときであった。(Y・K)